

知床五湖あり方協議会（第 27 回）

< 議事録 >

1) 日時：平成 24 年 12 月 19 日（水） 14：00～16：30

2) 場所：知床世界遺産センター レクチャールーム

3) 議題：

- (1) 平成 24 年度知床五湖登録引率者登録試験結果報告
- (2) 平成 24 年度知床五湖利用調整地区制度実施報告及び意見交換
- (3) その他

4) 資料：

- 資料 1 - 1 知床五湖登録引率者登録試験の経過について
- 資料 1 - 2 登録引率者名簿（平成 25 年度）
- 資料 2 平成 24 年度利用調整地区制度の総括
- 資料 3 利用調整地区制度導入に伴う利用者意識（平成 24 年度）
- 資料 4 知床五湖登録引率者審査部会（議事メモ）

- 参考資料 1 知床五湖利用調整地区 平成 24 年度 立入り実績
- 参考資料 2 知床五湖園地利用者数比較（平成 20 年～24 年）
- 参考資料 3 知床五湖遊歩道閉鎖状況一覧（平成 16 年～24 年）
- 参考資料 4 平成 24 年度植生保護期以降の知床五湖園地ヒグマ目撃等情報
- 参考資料 5 平成 24 年度植生保護期地上遊歩道の利用状況
- 参考資料 6 利用調整地区運用ルール・認定手数料の見直しスケジュール

5) 議事概要 :

(1) 平成 24 年度知床五湖登録引率者登録試験結果報告について

冒頭に環境省中山次長より開会あいさつ

環境省野川が資料 1-1、資料 1-2 を内容に沿って説明。

質疑応答

しれとこ・フォーラム 21 : 既存の登録引率者が来年度の登録をしなかったケースはあるのか。

知床財団 : 知床でガイドはするが、登録引率者としての登録をしなかった者はいる。健康上の理由等もある。

斜里観光協会 : 新規引率者の募集方法と周知はどのように行っているのか。

環境省 : 例年、新規養成の募集を 4 月からプレスリリースし、ホームページへの掲載も含め広報している。養成にあたっては、事前説明会、各種講習会、登録引率者の下で行うインターン、五湖内外での自主的な引率研修を経て受験資格を得る仕組みだ。

エコツーリズム推進協議会 : 新規登録者が少ない。地域外からの参入はないのか。引率者の数を増やすためには、受験しやすい環境が必要なのでは。

環境省 : 本年度の受験者は全員ウトロ地域を拠点としてガイドを行っている者だ。網走在住の者からも問い合わせがあり応募したものの、研修日程の折り合いがつかず受験を断念した。登録引率者の養成については、応募しやすい環境作りが課題だ。講習会の回数を増やすなど柔軟な体制作りをしたい。

環境省 : 資料 1-2 の通り、平成 25 年度知床五湖登録引率者を承認してもよろしいか。

一同 : 承認。

(2) 平成 24 年度知床五湖利用調整地区制度実施報告及び意見交換

資料 2 ~ 資料 4 の内容について、環境省野川が要約したスライドショーを用いて説明。

質疑応答 ヒグマの出没状況と対策について

しれとこ・フォーラム 21 : 本年度のヒグマの大量出没の状況については理解。大量出没の原因と来年の見通しについてどう考えるか。また、ヒグマの個体数の正確な把握は行われているのか。

知床財団 : 夏期の餌資源が非常に乏しかったことが第一の原因と考える。また、例年よりマスの遡上が大きく遅れたことも大きな要因。正確な個体数の把握には至っていない。

温泉旅館協同組合 : ヒグマに関する情報や対策等の実情をもっと地域に提供すべき。ヒグマの高密度化、馴化に対する対策はどのように考えるのか。ヒグマは観光資源とも捉えられるがあるが、地域住民との軋轢問題もある。

環境省：平成 22 年にヒグマ保護管理検討会議を設置し、平成 24 年 3 月にヒグマ保護管理方針を策定した。今後 5 年をかけ、モニタリングし、ヒグマの動向を把握する計画。

ただし、今後のあり方については議論の積み残しがある。クマを積極的に捕獲するのか、非致命的な手法で折り合いをつけるのか、等のいくつかのシナリオの中から意思決定する必要がある。行政コストや世界遺産としてのブランド価値等を考慮する必要がある。

エコツーリズム推進協議会：クマ側の人間に対する認識が変化した。クマは人を天敵とは考えていない。しかも、変化の速度が非常に速いのではないか。こうした現状認識に立てば、取り返しがつかなくなる前に、先を見越した対策が急務。

環境省：今年のヒグマ出没状況は特異な現象と考える。継続的に続くとは認識していない。出没数も数年おきにピークがあり、変動する。単年度の状況にとらわれ過ぎるべきではない。ある程度長期的なモニタリングに基づいた保護管理が必要。

斜里町：ヒグマ目撃件数でみると、例年 800 件程度であるが、本年は 1700 件を超えた異常な事態。しかし、五湖の利用者数の総数は増加した。この結果は、新制度の成果と評価したい。特に高架木道とヒグマ活動期のガイドツアーの存在は大きい。制度導入以前の状態で、仮に本年のような異常事態が発生したとすれば、五湖は全く利用できず、知床全体の観光客数にも大きく影響したと想像する。

知床財団：五湖は、知床国立公園の中でヒグマ対策が最も進んでいる場所。ガイドツアーやレクチャーにより、ヒグマに関するリスク対策が制度として実施できているからこそその成果だ。

斜里観光協会：利用者からは、高架木道でヒグマが見られてよかったという感想もある。五湖の施設が安全であると認識されていてよかった。

エコツーリズム推進協議会：五湖のガイドツアーのみでガイド事業者の採算は成り立たないのでは。ヒグマの出没が増加し、ツアー中止が多発した場合、登録引率者をやめてしまうといった事態は考えられるか。引率者から不安や不満の声は上がっていないのか。

環境省：登録引率者とは年に 3 回程度遭遇時の状況を検証するミーティングを実施し、五湖におけるヒグマのリスク回避に関して話し合っている。五湖以外についてはガイドも環境省も互いに踏み込んだ話はしていない。

しれとこ・フォーラム 21：保護管理方針を作ったということだが報告会等をもっと行えないか。地域で生活をし、事業を行っている身としては、ヒグマに関する最新情報やリアルタイム情報も提供してほしい。ヒグマに関する情報公開をもっと進めてほしい。

環境省：斜里町においてもウトロ地区においても住民説明会等を頻繁に実施しているが、参加者は少ない。住民のヒグマに対する意識にはばらつきを感じる。住民による不適切な習慣や行動もある。

しれとこ・フォーラム 21：五湖の利用者数は増えているということから、高架木道とガイドツアーは評価。しかし、高架木道から常にヒグマが見えており、観察場所となっているような現状は望ましくない。動物園やサファリパークのような印象で知床らしい利用のあ

り方ではない。また、人馴れが進行し、市街地出没にも繋がる可能性がある。

環境省：高架木道からヒグマを安易に見せることに賛成するわけではない。五湖で人馴れしたヒグマが市街地に侵入する危険についても理解。

しれとこ・フォーラム 21：クマの人慣れは従前から指摘されてきた。人側のクマ馴れも顕著。

環境省：エコツーリズム検討会議において、観光協会提案のエサやり禁止キャンペーンなどを展開している。観光関連の関係者と共に、啓発していきたい。協力をお願いしたい。

質疑応答 五湖園地の施設等に関する課題・要望

斜里観光協会：高架木道には日影がない。炎天下における子供お年寄りの利用に不向き。最終展望台に東屋やパーゴラを作るといった対策をとれないか。

環境省：気象条件等により、常設のものは技術的に困難。

斜里観光協会：評価アンケートのサンプル数が少ない。1000 は必要では。

環境省：統計学的に回収数が 100 くらいであれば適正との専門家から助言を得て実施した。次回に専門家を招集し、説明する予定。

しれとこ・フォーラム 21：最終展望台から地上の湖畔に降りる場所を作れないか。地面に立った実感が重要。

しれとこ・フォーラム 21：携帯電話の電波環境の改善を要望。

知床財団：フィールドハウスでのネット環境も不安定。携帯電波施設のウトロ全体の許容量に起因する構造的な問題。

環境省：公園法の地区区分上、大規模なアンテナを立てることは困難。景観を崩すことにもなりかねない。既存施設に付随した小規模なアンテナであれば可能性もある。

質疑応答 来年度以降の制度見直しについて

環境省：今後の制度見直しについて意見はあるか。

エコツーリズム推進協議会：ヒグマ活動期の増枠実験結果の説明をしてほしい。

環境省：資料 4 に沿って内容を説明。増枠実験について利用者アンケートにおいて大きな問題は見られなかった。一方、指定認定機関の業務は改善が必要との結果。審査部会において、来年度のヒグマ活動期の実験案を議論中。優先順位を立て実験を行い、平成 26 度以降の制度改変へ反映したい。登録引率者は当初、利用者の代表者という位置付けであったが、引率者の責務を明確にすることで自由度を高めることが可能と認識。

ウトロ自治会：ヒグマ活動期において散策希望者がいるのに引率者を紹介できない場合があると聞いた。引率者の数が足りないのでは。羅臼側のガイドに登録引率者は居ないのか。地域外の参入を促すことが必要。

環境省：引率者を安易に増やすことは困難。引率者の質の問題もある。ガイド業で生計を立てることのできる人数には限界がある。

環境省：ツアー中に事故が発生した場合、ボランティアガイドでは賠償責任に対応できない。必ずしも、ガイドの数をそろえればすべて解決するわけではないと考える。

しれとこ・フォーラム 21：引率者資格を自由度の高い登録制として、要望に応じて引率でできる体制を構築しては。中高年を含めボランティア的な運用を図れば斜里町には、ヒグマ対処ができる人材が多いはず。

環境省：ガイド事業所内でガイドを育成する際にバックアップをするアイデアも考えられる。

質疑応答 認定手数料のありかたについて

しれとこ・フォーラム 21：認定手数料は安くないのか。ヒグマ活動期と植生保護期で料金が異なるので収入が多く黒字で運営できているのであれば、2つの期間を同額にする議論があってもいいと思う。黒字分は、町民や観光客に還元すべき。

知床財団：公益法人の会計制度上、繰り越しやプールはできない。その年の収入は同年に何らかの事業に使用している。地域に還元できるような取り組みは努力している。

環境省：次回以降の会議において、収支報告と併せ、認定手数料の意見も受けたい。

(3) その他・連絡事項

構成メンバー変更の際には届け出をお願いします。

次回協議会は1月28日を予定。

(16 : 30 閉会)